

地域流通モデル構築支援事業（新規）

【地域流通モデル構築支援事業 20(0) 百万円】

対策のポイント

Uターン転送のような非効率な食品流通を解消するため、流通業者のノウハウ・知見を活用しつつ、新たな地域流通モデルを構築します。

（農林水産物流通の現状）

産地における出荷ロットの大型化や、地方の卸売市場の集荷力の低下等により、産地から大消費地への流通が多くを占める傾向にあります。中には、大消費地からUターン転送されて産地の近隣で消費されるなど、非効率な流通もみられます。

（課題）

- ・ 食料供給コストの縮減や高鮮度な農林水産物の供給が求められています。
- ・ 農林水産物の非効率な流通をできるだけ解消し、我が国農林水産物全体の効率的な流通の実現を図る必要があります。

政策目標

食品の中間流通コストを他の施策による効果と併せて2割削減

<内容>

産地の周辺地域やその近隣の中小消費地といった範囲での効率的な農林水産物流通を実現していくため、流通業者のノウハウや知見を活用しながら、新たな地場流通のビジネスモデルを公募し、その実証を行うとともに、その効果を把握し、優良モデルについて普及を図ります。

【定 額】

<事業実施主体>

民間団体等

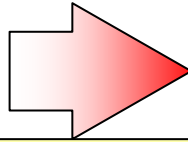
<事業実施期間>

平成20年度～平成24年度

[担当課：総合食料局流通課（03-3502-8236(直)）]

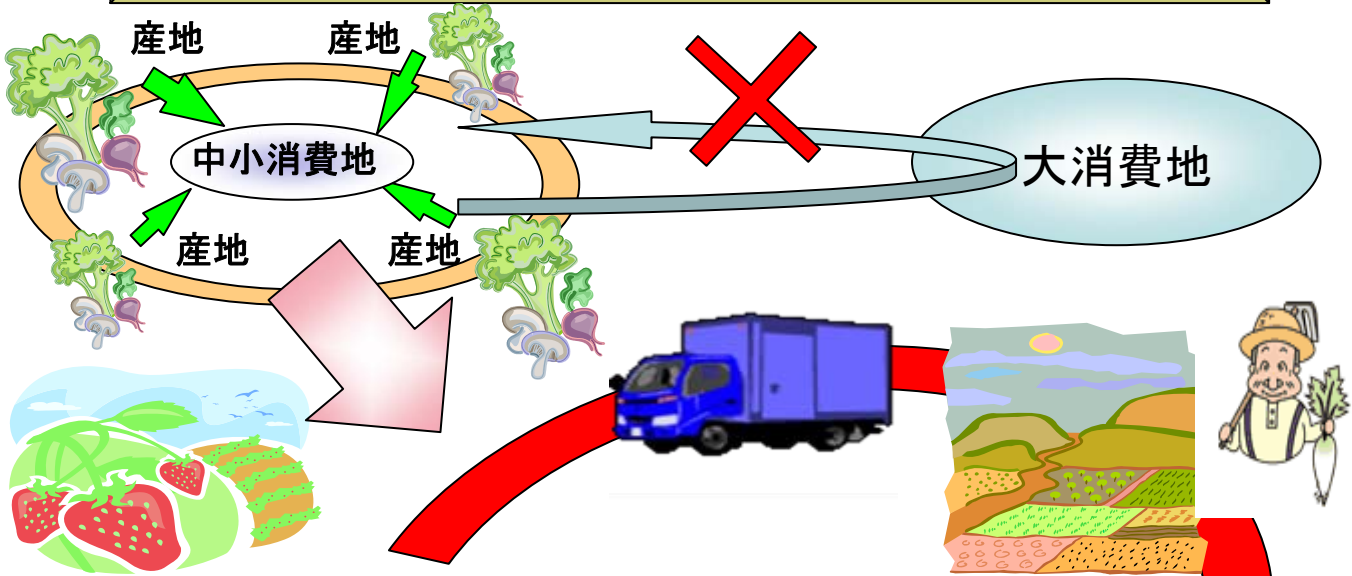
食品地域流通モデル構築事業

産地においては、出荷ロットを大型化
卸売市場の再編が進展



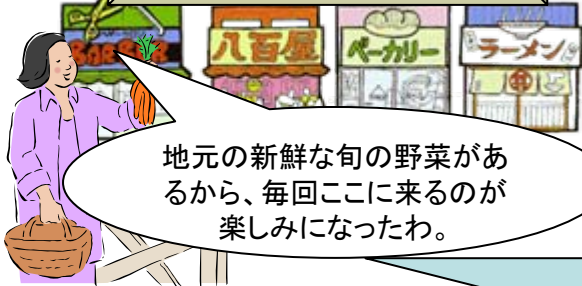
大都市向けの出荷が主流
地元の作物も大都市経由で流通

食料供給コストの縮減、高鮮度な農林水産物供給のためには、大消費地を
経由しない地域単位での効率的な流通を確立することが必要

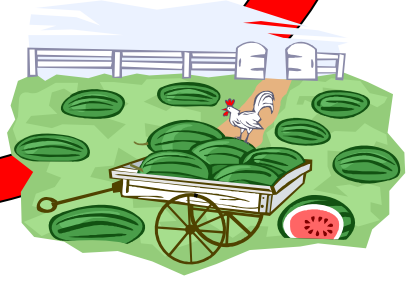


(例) 複数の小規模生産農家と空き店舗を有する商店街組合との間で、協議会を設置し、**流通業者のノウハウ・知見を活用しつつ、取引対象となる農産物等の品揃え、最適な流通ルート**を決定し、生産者も参加して空き店舗を利用した販売を行うなどのビジネスモデルを確立・展開。

何でも揃う〇×商店街



地元の新鮮な旬の野菜があるから、毎回ここに来るのが楽しみになったわ。



流通業者のノウハウ・知見を活用しつつ、食品流通を取り巻く環境の変化に対応した、新たな地域流通の構築・展開を推進。

期待される効果

食料供給コストの縮減

地域農業の維持・発展

商店街を中心とした地域活性化

